

鶴見大文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.25

ドキュメンテーション



春の見学会：三溪園にて

君は川流を汲め、我は薪を拾はん —— 新入生を迎えて

今春、ドキュメンテーション学科に79名の学生、新設のドキュメンテーション専攻に2名の大学院生が入学しました。馴れない環境の中、専門的な講義や演習の難しさに驚き、戸惑いを感じた一方で、学問の楽しさ、奥深さを見出し、充実した4ヶ月を過ごせたのではないかと思います。この学会報が刊行されるころには、前期の試験も終えてほっと一息をつき、後期に向けて英気を養っていることでしょう。

幕末、豊後国日田（現在の大分県日田市）に廣瀬淡窓^{ひろせたんそう}（1782-1856）という儒者・詩人がいました。教育にも力を入れ、私塾桂林荘^{けいりんそう}（後に咸宜園^{かんぎえん}）を開き、学問を志す数千人に及ぶ若者を全国から受け入れたと言います。

この淡窓に「桂林荘雜詠」という四首からなる七言絶句があります。その第二首を紹介します。淡窓の詩の中でも有名なものなので、読んだことがある人も多いでしょう。霜置く朝を描いたもので、夏号にはやや季違いですが、これから卒業・修了までの間、ともに勉強に励む皆さんに是非一読してもらいたい内容の詩です。

休道他郷多苦辛 道ふを休めよ、他郷苦辛多しと
 同袍有友自相親 同袍友有り、自ら相親しむ
 柴扉暁出霜如雪 柴扉暁に出れば、霜雪の如し
 君汲川流我拾薪 君は川流を汲め、我は薪を拾はん

起句の「道」には「言う」の意味があります。桂林荘に集まった塾生は単身故郷を離れて辛いことも多かった

はずです。それでも学問成就の為に、もう弱音を吐くのはやめようと呼びかけます。承句の「袍」は粗末な綿入れ（布団、どてら）で、一枚を共有する学友がきっとできる、ということ。本学科へも神奈川、東京を中心に各地から学生が集まっています。各自目標は異なるかもしれませんが、励まし合う仲間に出逢えましたか？

早朝に起き出して柴の扉を開けてみると外は霜が雪のように降り敷いていたというのが転句。そして、その厳しい寒さの中、勉強前の、一日の始まりの仕事として、「君は炊事の水を川に汲みに行け、私は火を熾す薪を拾いに行こう」と結びます。どんな艱難にも、助け合いながら立ち向かって行こうという強い意思が感じられて、この詩を読む度に気持ちが引き締まります。

淡窓はまた「萬善簿」という記録をつけていました。一日を振り返り、良いことをしたら○、悪いことをしたら●とつけ、白丸から黒丸を引いた数が一万になることを自らに課しました。皆さんも、例えば、上手くプログラムが書けたら○、くずし字が読めなかったら●というように、一万とは言わないまでも百くらい白丸を目指して、友だち同志競いあってみてはどうでしょう。われわれ教員も、努力する皆さんを応援します。

ドキュメンテーション学科 伊倉 史人

新入生の声

学部生・大学院生

司書を目指して

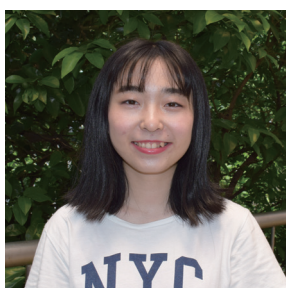
1年 平山 駿



当初は大学生活に不安を感じとても緊張していたのですが、入学してみると教員の方は接しやすく、学生も話しやすい人ばかりで安心しました。私は、司書を目指してこの大学に入りました。ドキュメンテーション学科では、その目標を叶えるための環境が整っており、同じ資格を取ろうとしている人も多くいます。このような場で学べるということは自分にとって、とても有意義になると思います。また、これからは自分自身で考え、行動しなければならない機会も増えてきます。まだ不安なことばかりですが、普段からやれることをしっかりと、自分にとって大学生活がより良いものとなるようにしていきたいです。

学生生活をはじめて

1年 渡邊 阿里沙

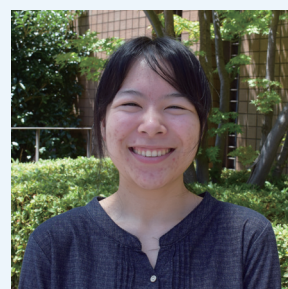


4月から鶴見大学に通うことになり、最初はとても不安でした。慣れない環境や通学路、友人ができるかどうかなど、いろいろなことが気がかりで、涙を流すときもありました。しかし、今では大学の環境にずいぶん慣れ、友人もたくさんでき、学科を越えてさまざまな方と出会うことができました。現在は、高校までより長い授業時間に慣れたり、これまで習ったことのない科目を理解したりと、新しいことに馴染めるように日々がんばっています。私はマイペースな部分があるため、これからの大学や日常生活にしっかりと計画を立て、有意義な4年間を過ごしたいと思います。

大学院生の日々

大学院博士前期課程1年 星野 ゆう子

大学院生といえば、皆さんはどのようなイメージを持っているでしょうか。私は、2018年3月にドキュメンテーション学科を卒業した後、4月から鶴見大学大学院に入学しました。大学院生は、授業を受けながら、さらに自身の研究を進めています。私は、卒業論文から継続している「点字の勉強を助けるシステムの開発と評価」をテーマとして、研究に取り組んでいます。大学院の授業は、平均すると1日に1科目程度となり、学部と比べると少なくなりますが、内容もより深くなり、研究者として独立していくための知識を身に付けていきます。研究についても、日々その内容を深め、学外で開催される学会で発表したり、論文を投稿したりしています。大学院生の生活についてもっと詳しく知りたい方は、図書館の学習アドバイザーまでお気軽にお尋ねください。



新たな学校図書館像を求めて

大学院博士前期課程1年 高橋 今日子

私が現在勤務している中学校の図書館では、年間150時間以上の授業を支援しています。十分に整備されているとは言えない環境でも、生徒たちは課題に応じて、図書、デジタル資料、ネット上の情報源にアクセスし、自ら課題解決を図ろうと試んでいます。

私は、生徒たちのレファレンスに応える学校図書館員として、学校図書館を学習情報拠点として機能させるために、多様なドキュメントの形態と、それらを提供するシステムの仕組みについて学びたいと考え、今春よりドキュメンテーション専攻第一期の社会人大学院生として学び始めたところです。自身も学びつつ、生徒たちの情報リテラシーの育成に携わりたいと考えています。



見学会 — 横浜美術館・三溪園

ドキュメンテーション学会では、毎年度4月新入生を対象に、地元横浜をよく知ろうということでバス見学会を実施しています。本年度は、昨年度特別実習Ⅰでお世話になった横浜美術館と三溪園を訪れました。



1年 齊藤 優

見学会では、横浜近くに住んでいても、なかなか訪れる機会がなかった場所へ行くことができ、とても楽しめました。横浜美術館では「臨死体験」をモチーフにした絵画がとても印象的でした。奈良美智さんの作品は以前から知っていましたが、実際に展示されていた作品を見ると、とても不思議で幻想的な雰囲気が醸し出されていて、より作品が好きになりました。

1年 城田 美波

さまざまな作品や建造物に触れることができ、楽しかったです。バスから見える風景もとても綺麗でした。横浜美術館では、普段あまり見る機会のない分野の絵を、じっくり鑑賞することができ、その魅力を知ることができました。横浜美術館には以前から足を運んでみたいと思っていましたが、なかなか機会がなかったため、訪問できて嬉しかったです。

1年 杉山 祐磨

美術館では、描かれた絵の雰囲気や題を見て、その背景を考えるのが面白かったです。また、大学の講義で習った書物の形態と同じものが展示されていたりして、見ていて楽しかったです。また、三溪園は庭園みたいなものだったので、他にもいろいろなものがあつたことに驚きました。合掌造りの実際の建物を初めてみることも良かったです。

1年 與那城 心

なかなか行くことができないところへ出かけることができ、とても楽しかったです。三溪園では、実際に昔の人が住んでいた家のなかに入ることができ、当時の生活をいろいろと知ることができました。昔の人の家はとても広く、一階は大工さんが二階は村の人たちが協力して作ったと聞き、とても驚きました。自然が豊かで美しく、また来たいと思いました。

国際インターンシップ



ドキュメンテーション学科では、毎年、海外の大学（姉妹校）からの学生を受け入れる、国際インターンシップを行っています。今年も、6月29日から7月9日まで、台湾・世新大学と中国・北京大学から8名ずつ計16名の学生が参加しました。

*研修生の感想は、英語原文からの抄訳

🗨️ 世新大学 1年 王子君 Wang Tzu-Chun

I went to many places and made many friends. On first Saturday, Tsurumi University students took us to Koutokuin and Hasedera Temple to see the famous Buddha and beautiful flowers. The best experience is wearing Yukata. I never thought that I could wear Yukata one day. I remember that I wrote a sentence in my diary. "Everything is so wonderful." I'll never forget the wind and air in that day. I think that the most important thing during these days is friendship. I made many friends in Japan. And I met many kind and cute teachers, everyone helps us in many ways. I really appreciate everything.

色々な場所に行き、たくさんの友達を作りました。最初の土曜日に鶴見の学生が鎌倉を案内してくれて、浴衣を着ることができました。友達ができたことが一番良かったことで、皆がとても親切にしてくれたことに感謝しています。

🗨️ 北京大学 3年 邵卫 Shao Wei

In Tsurumi University, we visited library and attended some lectures. The library is very convenient and the mascot is very cute. Although the library in Tsurumi University is not large, it is very exquisite and accessible. I very like the layout and style of it. Teachers and students in Tsurumi University is so kind. They are enthusiastic and sincere. When I communicated with students, I learned some things I never know like their views in some things and style of life.

鶴見大図書館は大きくはないけれど、とても便利で使いやすいと感じました。つまみ・つまんがかわいかった。鶴見の学生と話して、物の見方や、生活スタイルなど、自分にとっての発見がありました。

🗨️ ドキュメンテーション学科 2年 増淵 凜

いくつかのグループに分かれ、インターン生たちを様々な場所へ案内しました。私たちのグループは鎌倉へ行きました。浴衣の着付けをしたり、高德院へ行って大仏の中へ入ったりしました。インターン生が日本の文化に興味を持ってくれるのがうれしかったです。また、日本人の私でも知らないことが沢山あり、改めて自国の文化に触れるきっかけとなりました。日本と中国、台湾の文化の違いも教えてもらいました。会話には苦労しましたが、LINE翻訳などを使いなんとかコミュニケーションをとることができました。こういった体験は国際交流ならではのものだと思います。言葉が違っても、一緒に笑いあえたことが何よりも嬉しかったです。彼らにまた会えるとおもうと、来年の特別演習IIがますます楽しみになります。

学生の声

教育実習 鶴見大学附属高等学校

✍ 4年 竹迫 優花

私は高等学校「情報」の教員免許を取得するために、鶴見大学附属高等学校で2週間教育実習を行いました。教壇実習では、主に Excel を使った実習を行いました。最初は声が小さくなったり、生徒の反応をしっかりと見られなかったりしましたが、このような点を意識して実習を進めた結果、最後に教壇実習を行ったクラスでは、改善した授業ができました。教えたことがちゃんと伝わった時に、「すごい」「面白い」と生徒が喜んでくれることが嬉しく、やりがいを感じました。2週間という短い期間でしたが、教えることの楽しさ・難しさや、時間の管理の大切さなど多くのことを学ぶことができました。指導して下さった先生、実習を受入れて下さった鶴見大学附属高校に深く感謝しています。

図書館アルバイト

✍ 2年 瀬川 友生

私は1年生の後期から鶴見大学図書館でアルバイトをしています。司書になりたいと思いのこの学科に入った私にとって、このアルバイトはとても魅力的です。主な業務内容は1階のメインカウンターや視聴覚室のカウンターでの貸出返却作業、他大学等から依頼される資料の複写をする文献複写です。また、書架整頓や本の修復などもしています。書架整頓をしていると普段自分が手に取らない本に触れる機会が増え、新たな本との出会いがあります。また、カウンター作業では丁寧かつ利用者を待たせないようスピーディーに作業をしなければいけません。授業で習ったことを図書館アルバイトで活用できていることを実感しています。

優秀ポスター賞受賞！：国際教養学会

✍ 4年 岡村 江里奈・角ヶ谷 晴香

昨年度の特別実習Ⅰで、3年に1度開催されている現代アートの国際展「ヨコハマトリエンナーレ2017」の関連企画（ヨコハマプログラム）として横浜美術館美術情報センターと連携して、「ひろがる源氏 つながる古地図」展を開催しました。私たち学生は、前期の「ひろがる源氏」展に鶴見大学に所蔵されている『源氏物語』に関する古典籍を展示して、その解説とキャプションを書き、来場者への解説を担当しました。また、秋にはその成果をポスターにして、図書館総合展で発表しました。

そして、3月に鶴見大学で行われた国際教養学会のポスターセッションにも、図書館総合展の時に作ったポスターを再構成して出展しました。セッション会場では展示前の準備や美術情報センターでの展示解説の話を交えながら説明を行いました。その結果、ポスターの内容と口頭発表が評価され、優秀ポスター賞に選んでいただきました。皆で協力し作り上げたポスターで賞をいただけたことは嬉しく、特別実習Ⅰの達成感を更に高めることができ、とても良い経験になりました。



着任のご挨拶

加藤 弓枝

はじめまして。久保木秀夫先生の後任としてこの4月に着任し、書誌学コースの授業を担当しています。3月までは五年一貫教育の少し特殊な学校に務めていたため、鶴見大学での日々は新鮮な驚きの連続です。男子学生が極端に多かった前任校と比べ、男女の比率にそれほど差がないことでさえ、最初は戸惑いました。

さて、私は和本（わほん）と呼ばれる日本の古典籍について研究しています。これまで多くの典籍に接してきましたが、書誌調査の際には、なぜその本がこの世に存在するのか、書物に宿る古人の声に耳を澄ませることを心がけています。古人とは昔の人のことであり、本を執筆した人のみならず、出版や書写をした人、さらに所持していた人なども含みます。古い書物の多くは、その本を手にした人々によって、何らかの価値を見出されたからこそ、現代にまで伝わっています。そしてそのバトンを後世に渡し続けることができれば、和本は千年以上生きることができるのです。

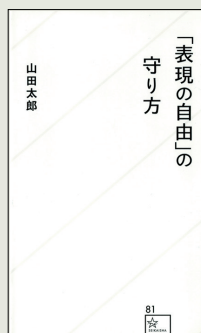
書誌学とは、書物を介して古人と対話をする学問だと考えています。その対話にはコツと知識のほかに、根気や時間も必要となります。しかし、コツコツと積み重ねていくと、まれに昔の人々が眼前に現れて語り出すような瞬間があります。それはたとえようもないほど楽しい時間です。私は講義や社会的活動を通して、一人でも多くの方に「見ぬ世の人を友とする」楽しさを感じてもらい、古人から渡された書物のバトンを受け取り、それを未来に伝える人になってもらいたいと思っています。

また、古い書物は必要とする人の前に、手繰り寄せられるように現れることがあります。それは偶然の出来事のようにも見えますが、強い思いと知識がなければその存在に気づくことさえできません。鶴見大学の図書館には数多くの貴重書が所蔵されていますが、それらの書物は歳月をかけて情熱をもって収集され、大切に保管されてきたものなのです。書誌学コースの授業には、そのような貴重な書物を実際に手に取ることもできる演習もあります。古典籍が図書館に納められるまでに、いかなるドラマがあったのか。学生の皆さんと一緒に、書物に宿る人々の声に耳を澄まし、その物語を詳らかにしたいと思います。



Book Review

竹宮恵子 『少年の名はジルベール』 小学館・2016
山田太郎 『「表現の自由」の守り方』 星海社・2016



文化というものは誰が作っているのだろう。日本文化というものは、生活をしている人間がそこにいて、自然とその周りに生まれてくるものと私たちは思いがちであるが、本当にそうだろうか。今回紹介する2冊の本を合わせて読むと、ひとりひとりの奮闘によって文化は守られていることがよくわかる。

ひとつは女性漫画家が20歳前後のとき、才能を持つ友人へのあこがれと焦りに苦悩する様子が、辞世の告白のように書き記されたものである。もうひとつは、コミケがもしかすると開催できなくなっていた事態を阻止した、ひとりの政治家の行動記録である。芸術家は人生をかけて作品を描いている。政治家は法律でもって文化を守っている。私たちが作品へ対価を払うことで、文化を守ることができる。他人に褒められたいからするのではない。大切なものだから、それを自分たちだけでなく次の世代も楽しめるように、何ができるかを考え、行動することで、文化は守られてゆく。（大矢一志）

No.15 【バンクーバ中央公共図書館 [バンクーバ、カナダ]】

Vancouver Public Library Central Branch, Vancouver, Canada

バンクーバのダウンタウンのへそ、シティーセンター（City Center）駅から南東へ3ブロックほど歩くと、黒褐色の丸い建物が見えてくる。外に図書館を示す看板などはないけれども、人々が吸い込まれてゆく様子から公共スペースの存在を感じることができる。ここは公共図書館では世界的に有名なバンクーバ公共図書館中央館である。

8層からなるとても大きな図書館で、各フロアも空間が広い。多くの人々が利用しても、圧迫感無く、また、それぞれの個人空間を尊重できる作りになっている。

この図書館は扱う資料の種類が多い。DVD等の視聴覚資料



バンクーバ中央図書館



館内の吹き抜け

や、地下にある子供向けコーナーも充実し、ヤングアダルトコーナーにある漫画の量も圧巻である。成人向けのコーナーには、オーディオブック（という、欧米では人気のある、本を朗読したCD）が充実しており、その再生環境も多数用意されていた。チャイナ語、日本語などの多言語資料も充実している。上層の階には専門書のコーナーがあり、理工系の書籍も殆ど大学図書館並みに揃っている。

カナダは、多民族文化を大切に公共サービスに力を入れており、その中心的な役割を果たしてきたのが公共図書館である。このバンクーバーには22の分館があり、地域サービスに貢献している。現在「多文化」という言葉には、「民族」という視点にとどまらず、個々人の生活背景の違いをも含めた意味が込められている。そしてこのような多文化対応サービスには、日本の公共図書館は半ば意図的に排除してきていたであろう、低所得者への情報提供も含まれている。公共図書館は、低所得者が雑誌やインターネットを自由に使える、重要な情報獲得の場所になっている。

ここで告白をしよう。館内のエスカレータを使っていたとき、前方にいた男性からの独特の体臭に我慢しきれず、自分は途中の階でエスカレータを降り、しばらく少し時間の調整をして、間隔を開けてしまった。ところが、彼と私の間にいた女性は、そのままその男性の後について、エスカレーターを降りていった。これが生活としてある文化なのだ。体から学んでいる躰のように生活していることから作り出されている文化なのだ。知識として知っただけの文化しか持っていなかった自分をこのときとても恥じた。

バンクーバーの公共図書館では、勉強をする学生、子供たちと絵本を読む母親、暖かさを求めてきたホームレスが、同じ空間で、それぞれの時間を過ごしている。生活文化としてある公共図書館の姿を見せてもらった気がした。

（大矢一志）

アクセス：シティーセンター駅から徒歩3分。

開館時間：原則無休で、一部の祭日で閉館する。月曜 - 木曜：10:00-21:00、金曜 - 土曜：10:00-18:00、日曜：11:00-18:00

アドレス：350 West Georgia Street, Vancouver, BC, Canada

<https://www.vpl.ca/location/central-library>

学科・学会活動報告 2018年4月～2018年7月

■ 4月3日 新入生交流会

オリエンテーションと新入生交流会を開催。交流会の自己紹介では、各自大学生としての豊富、進みたいコース、入る予定の部活やサークル、趣味等を話しました。

■ 4月4日 ノート PC 貸与

これから4年間、授業等で使うノート PC を貸与しました。全員無事初期設定を終えることができました。

■ 4月5日 平成30年度入学式

ドキュメンテーション学科15期生と大学院ドキュメンテーション専攻の2名が入学しました。式後、学科・専攻別に教室へ移動し、教職員が挨拶をしました



■ 4月21日 見学会：横浜美術館・三溪園

地元である神奈川県を知ってもらう・見直してもらうために、横浜美術館と三溪園へ見学に行きました。

■ 5月10日～6月21日 特別実習I事前授業

今年度のテーマは古書店目録のデジタル化です。古書店目録には書誌学コースで扱う古典籍の重要な情報がたくさん掲載されています。それらの情報をどのように読み取り、整理して、デジタル化するか考えます。11月の図書館総合展で成果発表を行います。

■ 5月14日・28日 パソコン補習

1年生の前期必修授業「情報機器教育論」で実施しているタイピングテストで惜しくも補習対象となった学生

たちに、タイピングのコツを伝えました。努力の結果は結果となって現れました。

■ 6月29日～7月9日 国際インターンシップ

台湾・世新大学と中国・北京大学から16名の学部生・大学院生がインターンシップ生として来日しました。さまざまな授業を受け、東京と神奈川の施設（図書館や研究施設等）を見学しました。



■ 7月7日 教育懇談会

保護者の会の後、学科別に保護者の皆様と教員が懇談会を開きました。教員紹介の後、教務関係の注意事項、就職状況等の説明、個別面談を行いました。

■ 7月13日 大学院説明会

大学院文学研究科ドキュメンテーション専攻について、学部生に向けて、文学研究科長と角田専攻主任、入試課から大学院の説明を実施しました。

■ 7月14日 研究室説明会

研究室配属に向けて、3年生に教員から研究室の特色や指導方針、履修しておいてもらいたい授業等の説明がありました。

■ 7月14日 ドキュメンテーション学会総会と交流会

平成29年度の事業・会計報告、監査結果報告、平成30年度事業・予算計画が報告されました。その後、大学開館食堂にて交流会を実施しました。

※ 活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

- 「ドキュメンテーション」第25号をお届けします。
- 1年生対象の春の見学会では、横浜美術館と三溪園に行きました。新入生の皆さん、交流を深めることができましたでしょうか。
- 久保木秀夫先生に代わって、4月から書誌学コースの担当として着任された加藤弓枝先生のご挨拶を掲載。

ドキュメンテーション 第25号
平成30(2018)年8月24日(金)
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3
☎045(581)1001 発行責任者：角田 裕之
学科ホームページ：<http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>